

世界が認めた日本の宝

ユネスコ無形文化遺産登録
国指定重要無形民俗文化財

徳山の盆踊



●4年ぶりの通常開催で活気再来

8月16日(水)、徳山区で徳山古典芸能保存会と地元小中学生等による「徳山の盆踊」が奉納されました。

「徳山の盆踊」は古歌舞伎踊りの初期の仕組みを伝承するもので、動物仮装の風流が添えられているなど地域的特色が取入れられており、昭和62年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。また、令和4年11月には、全国の風流踊の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されています。

例祭は毎年8月15日(火)に徳山の浅間神社で開催され、「鹿ん舞」「ヒーヤイ」「狂言」などが行われますが、今年は台風の影響により16日(水)に延期し開催されました。あいにくの雨模様でしたが、出立式を終えて徳山コミュニティ防災センターを出発した一行は、愛宕地藏堂でヒーヤイを奉納した後、浅間神社へ移動。境内の中心に設けられた舞台上で女子小中学生によるヒーヤイ踊りと、成人男性による狂言が、その周辺では男子小中学生による鹿ん舞が交互に演じられました。

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小での開催でしたが、今年は4年ぶりに従来どおりの開催が実現しました。また、ユネスコ無形文化遺産に登録されてから初の開催であったことから例年に増して多くの報道陣や見物客が訪れ、時に優雅で時に力強い演目の数々を楽しみながら鑑賞しました。見物客も飛び入りで「露払い」に挑戦したりと、にぎやかな祭りの夜となりました。

鹿ん舞



鹿のかぶり物をした踊り手たちが、両手に長さ30センチほどの紅白の棒を持ち「ソーリャア・ウン・ハイ」と叫びながら勇ましく踊る。

ヒーヤイ



舞妓姿の女子小中学生たちが成人男性の、謡いに合わせて優雅に踊るヒーヤイ。現在では「神すずしめ」「桜花」「ぼたん」などが残されている。

狂言



成人男性によって演じられる「狂言」。現在では、「頼光」と「新曾我」が伝承されており、「新曾我」は、ヒーヤイを演じた女子小中学生による舞とともに披露された。



祭典当日

1. 愛宕地蔵堂にて「ヒーヤイ」を披露する女子小中学生の皆さん
2. 「出る出る出るよ～鹿ん舞が出るよ～」のかけ声とともに浅間神社に向け徳山地区を練り歩く鹿ん舞の一行
3. ヒーヤイ「神すずしめ」
4. 男子中学生2名による「露払い」
5. 狂言「頼光」

練習風景

4年ぶりの通常開催に向けて、7月下旬から計10回にわたり練習を積み重ねてきた小中高生。
 芸能披露の裏には、地域の伝統を受け継いでいくため、地元有志が一体となって練習に取り組む姿がありました。



1. 鹿ん舞の練習をする男子小中学生の皆さん。
2. 地域の指導者からヒーヤイを教わる様子。
3. 川根高校生も参加し、鹿ん舞のお囃子を練習する様子。